

「西野小学校の伝統芸能伝承活動の取組」

1 学校名

南種子町立西野小学校

2 学年・人数

全校児童 29人

3 日時・場所

(1) 練習の日時・場所

ア 棒踊り

令和4年7月～11月 本校体育館及び校庭

イ 福祭文

令和4年9月～11月 本校各教室及び体育館

(2) 発表の日時・場所

ア 棒踊り

令和4年9月20日 本校校庭（運動会）

令和4年11月12日 本校校庭（西野フェスティバル）

※ 10月2日に門倉岬の御崎神社で予定していた奉納踊りは、新型コロナウイルス感染症対策として中止。

イ 福祭文

令和4年11月4日 南種子中学校体育館（町音楽発表会）

令和4年11月12日 本校体育館（西野フェスティバル）

令和5年1月7日 西之地区の各集落（福祭文）

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能について

(1) 名称

ア 棒踊り（ぼうおどり）

イ 福祭文（くさいもん）

(2) 由来

ア 棒踊り

明治時代に薩摩半島南部から伝わったといわれている。

イ 福祭文

中世末に種子島の殿様が京都に滞在し、諸芸を仕入れたという記録があり、京都の「祭文語り」かという説がある。

(3) 構成

ア 棒踊り

秋の収穫祭である願成就（西之地区では御崎神社大祭）で、他の民俗芸能とともに奉納される。六尺棒を持った4人と鎌を持った2人の計6人が一組でリズムカルに踊る。旧西野中学校生徒が踊りを受け継いでいたが、中学校の統合を機に、西野小学校児童が伝承活動を始めた。

イ 福祭文（くさいもん）

正月七日に各家々（不幸事のあった家は除く）、神社、お寺や学校等を訪れ、門口から福祭文を歌い、その家の一年の幸福と繁栄を祈る。西之地区の中でも、集落によって節に違いがある。

5 保存会や地域との連携の具体

(1) 棒踊り

本村集落、崎原集落の方々に指導をいただきながら練習をしている。また、練習はCDに録音した唄で行うが、本番では地域の方の生唄に合わせて踊っている。衣装の着付けは保護者の協力をもらい、中でも西野中の卒業生である父親たちが中心となっている。衣装の保管については、西之地区公民館から援助をいただいている。

(2) 福祭文

正月七日に、児童は大人と一緒に家々を歌って回る。地域の大人と一緒に行動することで、唄の節や挨拶の仕方などを覚えることができる。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

棒踊りは体育、福祭文は音楽として教育課程に位置付けることで、全児童が経験できるようにした。また、運動会、西野フェスティバル、町音楽発表会等の機会に発表することで、保護者や地域の方々に児童が伝承活動に取り組んでいる様子を、広く知ってもらう機会としている。

地域の方に指導をしていただいたり、地域行事で実践したりするなど、地域と連携を図りながら伝承活動に取り組んでいる。

7 取組の様子



棒踊り練習（地域の方による指導）



棒踊り着付け（保護者の支援）



棒踊り発表（西野フェスティバル）



福祭文発表（町音楽発表会）

8 参加児童生徒・保護者・保存会・教員等の感想・意見

- 棒踊りの伝統を受け継ぐために、1・2年生が分かるように教えた。教えるのは難しかったけど、最終的にはみんな踊れるようになったからよかった。〔6年児童〕
- 今まで受け継いできた上学年が低学年に教え、今の低学年が次の低学年に教えて……と受け継がれていく。私は留学生として初めて踊ったが、いい経験になった。〔6年児童 宇宙留学生〕
- 集落ごとに行っていたものが、担い手の減少で行われなくなってきている。それを学校でやっているのは、地域としてもありがたい。子供が社会に出たときに、故郷を思い出すよい経験となる。〔伝承者〕